

大阪の高校生の感想

福島に行く前日までは不安だったが、福島に行きとても楽しかった。だけど同時に、悲しい気持ちにもなった。1日目の請戸小学校では津波の恐ろしさを自分の目で見ることができ、普段の生活では知ることのない場所に行き見ることができて良かった。2日目のソーラーシェアリングのお話を聞き大きな可能性があると感じた。大阪でできるものはないかと考えた時に、大阪でも有名なブドウの畑を活用したソーラーシェアリングが一番可能性があると思った。そのためにも、大阪だけに限らず全国にソーラーシェアリングの技術を認知してもらい、知ることで挑戦できると考えた。3日目はえんたくんで1・2日目を通して思ったこと感じたことを言葉にして班の人に発表した。皆の意見を聞き、班としての意見をまとめて発表した。特に「復興」から「新興」という言葉を考えることができたのが個人的には良かった。アースウォーカーズの話は自分の知識になることが多い、特にドイツのエネルギーについては初めて知り、再生可能エネルギーの推進、エネルギー効率の良い建物など、日本とドイツのエネルギーの違いを知ることができた。また、原発に関する情報知ることもできて良かった。何より楽しかったし、たくさんの思い出ができた。また、自分が将来農業の教員になった時に、教員として高校生未来サミットに参加できればいいなと思った。

福島の高校生の感想

自分は福島の人間ですが、福島の農業についてまだ知らないことがたくさんあるなと感じました。持続可能な農業をするため、たくさんの人が工夫しているのだと知りました。

大阪の高校生と交流して、みんなの目的意識が高く、真っ直ぐで、刺激を受けました。またこのような場を設けていただけたと嬉しいです。

知る、
考える、
次の世代につなげる



二本松農型太陽光発電所、パネルの下でシャインマスカットや大豆、小麦、えごま、牛の放牧も行う

3日目は福島大学をお借りして、2日間を振り返り、課題の解決や手にしたい未来についてグループワークを行い、「未来への提言」をそれぞれ発表しました。参加した高校生の一人は「協力し合ってみんなの考えがまとまった時、とてもうれしかった」と感想を話してくれました。午後からは福島大学食農学類の研究施設や農場を見学。

大阪の高校生が空港に向かうバスに乗車する際には、涙を流して別れを惜しむ生徒もいて、短い期間ですが大きな学びと出会いの証だと思います。



福島大学食農学類の研究室で特別講義



グループで考えた「未来への提言」を発表。「知って、考えて、次世代につなぐ」



土湯温泉ゆもりにて
高校生、大学生共に仲が良い

農民連フラッシュ flash

会津農民連の取り組みを視察

9月4日喜多方市山都町の渡部よしのさんの有機米・大豆栽培と、会津産直センターの小麦施設の視察研修を行いました。「草を見てからでは遅い」「大豆は密植すると風通しが悪くなり虫が出る」「水田の草がひどくなったら大豆に変える(田畠輪換)」など、これまでの経験を活かした栽培ポイントを聞くことができとても有意義な研修となりました。



第64回福島県農業賞受賞

安達地方農民連会長の佐藤佐市さん・洋子さんご夫妻が福島県農業賞を受賞し、二本松市長に受賞報告をしました。佐市さんは「みんなに助けてもらしながら、自分もみんなのために力を尽くしながら、そうやって農業を続けていることを伝えたい」と話していました。



2日目



福島大学食農学類の圃場見学



1日目

1日目は浜通りの東日本大震災・原発被害を見学しました。玄米の全袋検査、浪江町請戸小学校の津波震災遺構、帰還困難区域が多く残る中、新しい町を再生している大熊町を見学。参加者の多くが「来てみなければわからなかつた」と感想を残してくれました。



請戸小学校で津波被害の教訓を学ぶ



二本松農業専門学校で農業の授業を受ける

福島農民連の電気購入できます!

福島農民連産直農協で発電している電気を「みんな電力」から購入や応援することができます。再生可能エネルギー100%の電気も選択できます。みんなの選択で地球を冷やしましょう。

<https://minden.co.jp/personal/>



二本松発電所